

農作業特報

黒 部 市
黒 部 市 農 業 技 術 会 議

春の土づくり

「いざ、土づくり！美味しい富山を届けよう！」

①土壌改良資材及び有機物の施用

土壌改良資材を昨秋に散布しなかった場合は耕起前に必ず散布するとともに、有機物の施用に努めましょう。ケイ酸は粃割を軽減する効果あり！

資材名	10aあたり施用量	効 果
粒状ケイカル	200kg	ケイ酸補給、酸度矯正
シリカロマン	100kg	ケイ酸・リン酸補給、酸度矯正
シンキョーライトP	60kg	ケイ酸・カリ補給、保肥力向上
アサヒニューテツ	100kg	鉄分・ケイ酸補給、秋落ち防止
発酵鶏ふん※	春75～100kg	リン酸・カリ補給、秋落ち防止



土壌分析結果から、市内のほ場の多くで、ケイ酸、カリ、鉄分が目標値を下回っています。近年、これらが要因となる「ごま葉枯病」の発生が目立ってきました。

※連用ほ場や地力の高いほ場は、基肥を減量しましょう。

②深耕による作土層の拡大

耕起は、作土の深さ15cm以上を目標（現状より3cm深く）に、トラクタの速度を落としてゆっくりと行いましょう。

作土層を深くすることで根の伸長を促し、気温や水分の変化を受けにくい稲体にしましょう。

育苗～田植えの計画策定

「コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！」

老化苗を防ぐため、田植えに合わせた作業計画を立てましょう。

【8月5日頃に出穂期をむかえるための田植え日の目安】

	田植え	出穂期	成熟期
前沢（山手）、東布施（山手）、愛本	5/10	8/5	9/19
下立、浦山	5/12	8/5	9/16
前沢（平場）、東布施（平場）、田家、若栗、荻生、大布施、村椿、石田、生地、牧野	5/15	8/5	9/15

【田植え日に合わせた育苗作業】

無加温育苗の作業計画は「米づくりノート」を参考にしてください

田植え予定日	比重選・種子消毒日	浸種日	催芽日	播種日	ハウス搬出日
5/10	4/6	4/8	4/17	4/19	4/22
5/15	4/15	4/17	4/25	4/26	4/29

10アール当たり箱数の目安 18～21箱※

※播種量 120g/箱（乾粃）、栽植株数 70株/坪として

健苗育成のポイント

「GAPチェックシートで確認・点検！」

① 種子消毒～播種～出芽

比重選

◆充実の悪い粃や、ばか苗病等の保菌粃を除去する。

比重：うるち 1.13（硫安 5.3kg/20ℓ）、もち 1.08（硫安 3.0kg/20ℓ）

※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後は十分に水洗いをする。



種子消毒

◆「モミガードC水和剤」による処理方法

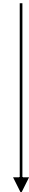
- ・200倍液（種粃 10kg に薬剤 100g/水 20ℓ）に24時間浸漬
- ・薬剤は少量の水で良く練ってのり状にしてから、所定の水量で希釈する。



浸種

◆発芽を揃えるために、十分に吸水させる。

- ・水温 10～15℃で、7～10日程度。（特に、浸種初日は水温 12.5℃程度に保つ）
浸種積算温度 100℃以上が目安：水温×日数=100℃・日以上
- ・水は1～2日毎に交換する。また、こまめに芽出し袋の上下入れ替えを行う。
※水温 10℃未満や 20℃以上では、芽の揃いが悪くなりやすく、不均一となります。
※水温 15℃を超えそうな場合は、毎日水の入れ替えを行いましょ。
- ※浸種桶は直射日光を避け、温度変化の少ない場所に設置しましょう。



催芽

◆30℃で行い、芽の長さハト胸～2mm程度に

- ・30℃で1日を基本とするが、芽の揃いを確認して時間調整する。



播種

◆播種量は乾粃 120g /箱

（催芽粃は容積 190～200ml、重さ 150g）

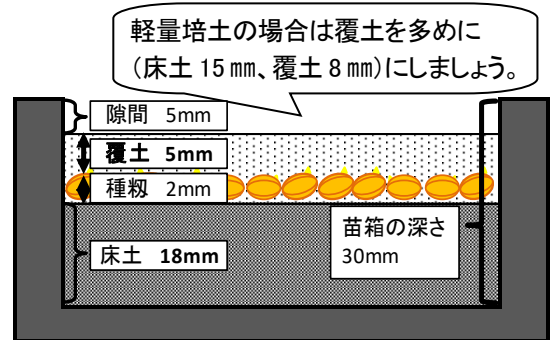
※播種前に空箱で播種量を確認する。



出芽

◆育苗器は 30℃で 2～3日

- ・事前に育苗器のサーモスタットや温度計が正常に作動するかチェックする。
- ・芽の長さが 1cm に揃ったら搬出する。



播種後のイメージ図(加工床土の場合)

② 育苗期間の温度管理

育苗期間の気温が高いと、苗は軟弱徒長となりやすく、細菌性病害も発生しやすくなります。ハウス内の温度と水管理に十分注意して下さい。

◆ハウスの温度管理の目安

	緑化期（2～3日）	硬化期（13～15日）
昼間	25℃以下 ※30℃を超えないように、早めに換気する	
夜間	10℃以上。 ※5℃以下の低温が予想される場合はハウス内の保温に努める	
かん水	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出時に覆土を落ち着かせる程度 ・ハウス搬出後は、水不足や高温による葉ヤケに注意 	<ul style="list-style-type: none"> ・床土の乾きに応じてかん水を行う ・水のやり過ぎに注意（カビや病気の発生を助長し、根の伸びが悪くなる）
	<ul style="list-style-type: none"> ・床土によって水持ちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意する。 	

※ハウス搬出後は、カンレイシャ等の被覆資材で2～3日遮光を行う。

春の農作業安全運動実施期間 4月1日～5月31日